

ほほ笑みの国・タイの観光戦略

昨年十二月二十日、一年間に日本を訪れる外国人旅行者数が史上初めて一〇〇〇万人を突破し、「観光立国」の実現に向けて新たな一步を踏み出した。一方、タイは、年間外国人旅行者数が二六〇〇万人を超えるアジア有数の観光大国である。一九八八〜二〇〇〇年の「アメージング・タイランド」キャンペーンを皮切りに、近年、次々と観光振興策を打ち出し、観光はタイを代表する一大産業となっている。「ほほ笑みの国」といわれるタイの魅力と観光戦略について、タナティップ・ウパティシン駐日タイ王国大使にお話を伺った。

副会長／観光委員長
東日本旅客鉄道相談役
大塚陸毅
おおつか むつたけ



深い交流の歴史 〜緊密な関係を有する日タイ両国

大塚 タイと日本は六〇〇年以上の交流の

〇一三年に約一五〇万人を数えました。観光では、タイは日本の大先輩であり、われわれはタイから多くを学べるものと考えています。

タナティップ 大塚副会長のおっしゃるとおり、両国には長い交流の歴史があります。タイ国民は、日本に親しみを持っており、日本のことをよく知っています。私自身、小さいころから、漫画、アニメ、映画など日本文化に親しんできました。

また、経済面でのつながりも重要です。タイにとって日本は、貿易相手国としては中国に次いで第二位の国であり、投資額では第一位の国です。大使に就任してから多

歴史があり、一八八七年の修好通商条約締結以来、政治的にも経済的にも親密な歴史を築いてきました。

日本は従来、加工貿易で経済成長を実現してきましたが、二〇〇三年に小泉総理(当時)が観光立国を唱えて、以来、国の成長戦略の一つの柱に位置付け、

訪日旅行キャンペーンや外国人受け入れ環境の整備を進めています。特に、タイに関しては、昨年六月に観光をはじめとする一定の短期滞在についてはビザを免除したこ

くの日本企業のトップとお会いしています。皆さん、タイに工場や営業所があったり投資をしていたり、関係を持っていない企業はないくらいです。観光に限らず、今後の日タイ関係のなかで、経団連が果たす役割は非常に大きいと期待しています。

観光を通じた草の根交流は 世界平和につながる

大塚 私は、日本が観光振興に取り組み意義について、次の三つが考えています。

一つ目は、観光による交流人口の拡大は、地域の農林水産業をはじめとする幅広い産業に大きな経済効果をもたらす、国・地域の経済社会を活性化することです。

二つ目は、観光は、国民一人ひとりの草の根レベルの交流を生み出し、それが政府間の外交関係の基盤となっていくという意味で究極の平和産業であることです。

三つ目は、観光には災害などの危機を乗り越えていく力が秘

ともあり、二〇一三年のタイからの訪日旅行者は約四五万人と、前年比で七割以上も増加しました。これは、昨年、年間訪日外国人旅行者数が史上初めて一〇〇〇万人を達成した大きな原動力になりました。一〇〇〇万人目となったのはタイ人の夫妻であり、多くのタイの皆様が日本を訪問してくださったことに、この場をお借りして御礼申し上げます。

一方タイは、すでに年間二六〇〇万人を超える外国人旅行者を受け入れる観光大国です。日本人にとってもタイは人気の高い旅行先であり、タイを訪問する日本人は二

められているということです。二〇一一年三月十一日の東日本大震災では、東北の観光は大きなダメージを受けました。しかし、震災後には、ボランティアとして多くの人が東北を訪問しましたし、東北を旅するこ

とで応援しようと多くの観光客も訪れました。また、被災地の人々が、厳しい状況のなかでも旅行者を受け入れようとされたことが、観光地の精神的、経済的復興を後押ししたように感じました。

大使は、観光振興の意義について、どのようにお考えですか。
タナティップ 観光振興の意義についての

大塚副会長のお考えには心から賛同します。私も、観光を通じた草の根の交流によって、異なる国・文化の人々がお互いをよく知る



地方視察の際に、地元の企業家向けにスピーチをするタナティップ大使。訪れた多くの県で、日タイ関係や経済、投資などさまざまな内容のセミナーに参加、講演を行っている

ね、ステージでは伝統音楽・芸能、ポップカルチャーのライブなどが行われました。二日間で約三五万人の方が来場しました。今回特徴的だったのは、日本人だけでなく、訪日中の外国人観光客もたくさん参加してくれたということです。日本の観光政策の効果の表れだと思います。

観光はタイの産業政策の最重点分野

大塚 タイにおける観光振興への具体的な

三つ目は、観光関連商品、すなわち旅行の記念となるような、その地域ならではの物産を開発することです。これにより付加価値の高い観光を提供できます。この点は、日本の大分県で行われた「一村一品運動」を成功例として、学ばせてもらっています。四つ目は、信頼性を向上させることです。観光客に安心・安全に旅行してもらおうこと

取り組みとしては、早くから外国人旅行者向けの医療を主目的とした滞在に力を入れていることがあげられます。「メディカルツーリズムにおけるグローバルリーダーになる」という強い意思のもと、タイ国政府観光庁がバックアップしていると伺っています。また、タイ北部の農村部の観光資源の掘り起こしを行うなど、都市部以外ではグリーンツーリズムを推進し、旅行者に対して多種多様なメニューを提供しています。最近では、チェンマイでロングステイフォーラムを開催するなど、日本のシニア層の取り込みも積極的に進めていると承知しています。

現在のタイの観光振興に向けた取り組み、また、タイ政府の産業政策における観光の位置付けなどについて、教えていただけますか。

タナティップ タイ政府は、観光を産業政策の最重点分野として位置付けています。タイにおける観光収入は、GDPの約10%、四兆円規模になります。二〇一二〜二〇一六年までの「五カ年基本計画」では、タイが世界レベルで競争力を持つ観光地と



地方視察の際には、県庁や地元の商工会議所、タイと関係の深い企業など、さまざまな方と意見交換をする機会を持つように努めている

はももちろんですが、観光商品などの品質を高めることにも力を入れています。

五つ目は、官民の連携を推進することです。特に、地方自治体と民間が一緒になって観光地を開発していけるようなシステムを模索しています。

昨年、タイを訪問した外国人観光客は、二六五万四七二五人です。日本からの観光客は、中国、マレーシア、ロシアに次いで四番目でした。これからも、多くの日本の方にお越しいただきたいと思っています。

個人旅行者やリピーター層の獲得が鍵となる

大塚 タイが「オール・タイランド」で観光振興に取り組んでいることがよくわかりました。日本としても「オール・ジャパン」で取り組んでいきたいところです。

日本では昨年、安倍総理のもと、観光立国推進閣僚会議が組織され、観光庁だけでなく、外務省や法務省、国土交通省など、関係省庁横断的に観光立国の実

なるために、五つの方針を掲げています。一つ目は、観光の一次的な基盤を整備することです。例えば、交通インフラの整備などがこれに含まれます。日本の場合、これについては十分に整備されているので、目標とする必要はないでしょう。

二つ目は、観光地の開発を進めることです。新たな観光地を開拓するとともに、すでに知られている観光地に磨きをかけます。バンコクだけがタイではありません。チェンマイ、プーケットもありますし、それに続く新たな観光地も開発されています。

現を因る体制が整えられました。昨年六月には、「観光立国実現に向けたアクション・プログラム」が決定され、「日本ブランドの作り上げと発信」「ビザの発給要件の緩和」「多言語対応や免税手続きの簡素化といった外国人旅行者の受入体制の改善」「国際会議等の誘致や投資の促進」といった具体的な方針が示され、実行に移されつつあります。先ほど申しあげたタイに対する短期滞在ビザ免除の措置もこの流れによるものです。

その他、タイからの旅行者向けの具体的な取り組みとしては、日本政府観光局が主に団体旅行向けとして、バンコクで年二回開催されるTITF(Thai International Travel Fair)に参加しているほか、個人旅行者を対象とした旅行フェアを開催しています。回を重ねるごとに来場者は増え、日本への関心が高まっていると感じられます。

また、訪日するタイからの旅行者の分析をすると、団体旅行者四一%に対して個人旅行者が五九%で、また、初めて日本を訪れるお客様四三%、リピーター五七%とな



バンコクの仏教寺院「ワットプラケオ」
提供：タイ国政府観光庁(Tourism Authority of Thailand)



バンコクの高架鉄道「スカイトレイン」
提供：タイ国政府観光庁(Tourism Authority of Thailand)

るなど、個人旅行者とリピーターの割合が増えています。

日本の今後の課題、とりわけタイに対する取り組みとしては、増加する個人旅行者やリピーター層に継続的に日本に来ていただくこと、また、バンコク以外の地域の方々にも日本への観光の認知度を上げていくことでしょう。

タナティップ タイ短期観光者に対するビザ免除措置という安倍総理のご英断に感謝しています。そのおかげで、タイでは滅多に会うことができない友達に、昨年从今年にかけて、東京で四回も会うことができました。

「おもてなし」の心と おいしい「和食」を観光資源に

大塚 今後、より多くのタイの方に日本へ来ていただくようにするためには、季節の集中と地域の集中という二つの課題があります。

タイから日本への旅行者は、一年のうちで、タイにおける旧正月にあたるソンクラーンの四月と長期休暇を取る十月に集中し

も喜ばしいことです。

今後、個人旅行者やリピーター層の継続的な訪日が観光振興の鍵となることは、大塚副会長のおっしゃるとおりだと思います。私は、大使に就任して一八カ月間で、国内の三一県を訪問しました。どこへ行っても、交通をはじめとするインフラが整っていることに感心しました。

JNTO(日本政府観光局)の事務所がバンコクにあり、日本の地方都市のPRに力を入れていることはよく知っており、大変効果的だと思います。先日、秋田県の佐竹敬久知事にお会いしましたが、秋田県のPR事務所をバンコクに設置されると伺いま

ビザが免除された昨年の七月一日以降、タイからの観光客は激増しており、今年度は七〇万人を超えるものと予測しています。そのため、大使館員の仕事も急に忙しくなりました。しかし、それだけ多くのタイ人が訪日してくれることは、私にとつて

した。地方自治体自らが外国人観光客獲得に動いていることに感心しました。

ただ、残念なことに、今年の三月以降、タイ国際航空の仙台便が運休となりました。タイからの観光客は、仙台から入って東京に行き、そこから帰国するというルートをとる人が多かったので、帰りの便が空席になつてしまつていました。仙台からタイへ行く日本人を増やすか、東京に行かなくてもタイ人の観光客が仙台離発着の旅程で満足できるような工夫が必要です。

一方、今年の十月には、バンコクー広島チャーター便が試して就航する予定です。広島にはマツダの本社があることから、観光客だけでなくビジネスマンの往来も期待できるとみています。

大塚 大使のおっしゃるとおり、東京以外の地方も含めた観光立国を図っていくためには、首都圏空港との連携も含めた地方空港の活用は必須です。そのためにも、日本の地方とバンコク、あるいはタイの地方都市との双方向の交流を拡大していくことが大切です。

ています。この時期は日本人にとつても旅行シーズンであり、特に東京のホテルは予約を取るが大変難しくなつてしまっています。こうした不便を解消するためには、東京のホテルのキャパシティを上げていくことも重要ですが、違う季節、東京以外のさまざまな地域の魅力をタイの方々にもっと知っていただくようにすれば、不便を解消するだけでなく、お客様の満足度を高め、リピーターになっていただけたと思います。

そこで、大使のこれまでの日本でのご経験を踏まえ、日本の魅力とそれをタイの方々知っていたいただくための方法についてアドバイスを頂戴できればと思います。タナティップ 日本の魅力をひと一言で言えば、ジャパニーズ・ホスピタリティー、「おもてなし」の心ではないでしょうか。日本の新幹線に乗るといつも感心するのは、車内販売員の「おじぎ」の所作の美しさです。私は、TCEB(タイ国政府コンベンション&エキシビジョン・ビューロー)の幹部に、タイ人もほほ笑むだけでなく、きちんとあいさつをするべきだと伝えました。

私が、もう一つ素晴らしいと感じている

のは「和食」です。先般、ユネスコ無形文化遺産に指定されたと聞いています。レストランガイドブックとしては『ミシュランガイド』が有名で、このガイドブックで星の付いた日本料理店を巡れば、満足度の高いグルメツアーができることでしょう。そこで一つご提案があるのですが、海外への和食のPRを他国が作成したガイドブックに任せるだけではなく、日本の関係者自ら和食のガイドブックを作成するなど、情報発信を強化してみたいかがでしょうか。

タイでは、和食がブームになっており、昨年一八〇〇店だった日本料理店が、今年は二三〇〇店に急増しています。ぜひ、和食を前面に押し出して、観光立国を実現させてください。

大塚 大変興味深いご提案、ありがとうございます。日本はいいものを持っていても自らの情報発信が弱いという指摘、ごもっともだと思います。今後、日本の発信力の強化についても意識して活動していきたいと思えます。本日は、示唆に富むお話を頂戴し、誠にありがとうございました。

(二〇一四年五月二十日 タイ王国大使館にて)